

2019年6月20日

## 2019年度 第1回学校関係者評価委員会 議事録

日時：2019年6月20日（木）14：30～15：30

場所：日本福祉教育専門学校 高田校舎 241 教室

出席者：金川宗政（特別養護老人ホーム東池袋桑の実園）

肥後義道（立川市社会福祉協議会）

松山慎司（社会福祉法人西東京市社会福祉協議会）

小内仁子（新宿ボイスクリニック）

加地陽平（新宿区あゆみの家）

池田友記（多摩緑成会 緑成会病院）

小田智雄（社会福祉法人やまて福祉会）

佐藤初美（NPO 法人10代・20代のにんしん SOS 新宿）

茂手木ひとみ（NPO 法人10代・20代のにんしん SOS 新宿）

西川ひとみ（NPO 法人ピアたちばなグループホームさくら）

橋谷恵（新宿公共職業安定所）

志村敬親（中野区地域生活支援センターせせらぎ）

大谷修（日本福祉教育専門学校 校長）

工藤征四郎（日本福祉教育専門学校 副校長・教務部長）

白川耕一（日本福祉教育専門学校 教務副部長）

中嶋裕之（日本福祉教育専門学校 事務次長）

浅見豪（日本福祉教育専門学校 教務課長代理）

鈴木達也（日本福祉教育専門学校 係長）

### 議題

#### 1. 大谷校長挨拶

冒頭に本校校長の大谷より挨拶があった。

#### 2. 自己紹介

続いて、各委員の自己紹介をおこなった。

#### 3. 議長選出

議長の選出を諮ったところ、満場一致で松山慎司氏が議長に選任された。

#### 4. 自己点検自己評価・学校関係者評価結果に関する意見交換

事務局より、外部委員による学校関係者評価の評点が低く、かつ学校として対応に苦慮している卒業生との連携や学生対応について意見交換を行いたいとの提案があり、承認された。

##### <意見交換①>

項目【4-15-1】卒業生の社会的評価を把握しているか

【5-21-1】卒業生への支援体制を整備しているか について

卒業生の社会的評価については各就職先や実習先、同窓会の場で収集しているが、十分ではない。卒業生の状況把握の重要性は認識しており、情報収集の強化に向けた取り組みに関し、委員の皆さまよりアドバイスを頂きたい。(事務局)

##### (委員からの意見)

- ・ 卒後勉強会では、参加者同士が現在の職場に関する事や仕事内容、学会参加等、様々な情報交換を行っている。卒後勉強会に学校が関わることにより、卒業生の社会的評価を把握することが可能ではないか。
- ・ 卒業生の社会的評価を把握する為には、同窓会との連携が重要である。同窓会出席ハガキに情報記入欄を設ける、同窓会新聞に卒業生の活動ニュースを掲載する等、積極的に情報収集や発信を行う事により、卒業生の同窓会に対する意識が高まり、同窓会への出席者が増加するのではと考える。それにより同窓会が卒業生同士の意見交換の場として有意義なものとなり、学校としても情報収集が可能となる。
- ・ 情報収集を行う為には学校と卒業生との繋がりを構築する必要がある。卒業生は学校がどのような卒後フォローを行っているのか把握していない場合があるので、学校から卒後フォローについて卒業生に発信し、繋がりを構築してはどうか。
- ・ 卒業後1・2年の方は仕事内容や職場の人間関係等に関する様々な悩みを抱える事がある。過去に仕事等に関する悩みを抱えていた卒業生の克服エピソード等をホームページに掲載し発信することが、同じ悩みを抱えている卒業生のサポートにつながるのではないか。

貴重なご意見を頂き感謝する。日福の強みは卒業生の多さにある。そのネットワークを構築し、卒業生の皆さんと学校とが相互に助け合えるよう、同窓会と連携しながら仕組みの構築を行っていききたい。(大谷校長)

<意見交換②>

項目【5-18-1】学生相談に関する体制を整備しているか

【5-18-2】留学生に対する相談体制を構築しているか

【5-19-3】学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか について

留学生の問題や疾患を抱えている学生に対する対応等に苦慮している。委員の皆さまのご意見をお聞かせ頂きたい。(中嶋)

- ・様々な国籍の留学生や当事者等、多様な学生が入学してきており、対応に苦慮している現状がある (中嶋)
- ・ベトナム人留学生の退学理由を教えてください。(委員)
- ・経済的困窮者が生活の為にアルバイトを優先してしまい、学業についていけなくなるケースや、入学時点で介護福祉士の仕事理解が浅く、入学後の学習内容にギャップを感じ退学するケースがあった。これらの対応策として、経済的困窮者に対しては留学生のアルバイト先等に連帯保証人になっていただき、東京都介護福祉士等修学資金の利用を勧めている。介護福祉士の仕事理解については、入学前に介護福祉士に関するビデオを鑑賞させ、仕事理解を促している。(中嶋)
- ・日本語が流暢な留学生であっても、文化の違いにより苦勞する場面があるのではないか。そういった留学生への対応策として、通訳者を採用してはどうか。(委員)
- ・留学生対応として、オリエンテーション時にイラスト付きの資料で説明を行ったものの、理解されないケースがあった。対応策として、ベトナム人や中国人の先輩、連携企業のスタッフ等をオリエンテーションに配置したところ、改善された。  
現在、通訳者は配置していないが、日本語教員を3名配置している。また、連携企業に対し、必要時にベトナム語や中国語等を話せるスタッフの派遣を依頼している。(中嶋)
- ・留学生の入学時点の日本語能力はどの位か。(委員)
- ・N3レベルの留学生が増加傾向にある。95%の留学生は日本語学校を経由して入学するが、日本語レベルが高い学生は少ないのが現状である。(中嶋)
- ・日本に来る事が目的の留学生が多くなっている。しっかりとした選考を行い、留学生を受け入れる必要がある。(委員)

- ・本校の留学生試験では、日本語テストの他に、小論文や日本での日常生活についてスケジュール作成を行っている。こうした試験から留学生の学習意欲を確認し、選考を行っている。(中嶋)
- ・勉強についていけない留学生に対するサポートはどのように行っているのか(委員)
- ・週3日、日本語教員と専任教員が放課後に補講を実施している。  
今年度より、日本語レベルが高い留学生は日本人学生と同じクラス、日本語レベルが低い留学生のみのクラスに分け、日本語レベルが高い留学生に対しては授業の補講を中心に、日本語レベルが低い学生については日本語レベルの向上を目的とした補講を中心に行っている。(中嶋)

#### 5. おわりに

委員の意見を参考に、今後も学校運営に対して改善を図っていきたい。次回の学校関係者評価委員会は11月を予定している。

以上

## 2019年度日本福祉教育専門学校 学校関係者評価評点一覧

2018年度自己点検自己評価(2018年4月1日～2019年3月31日)による

### 学校関係者評価について

学校が実施した自己点検自己評価の結果が適切であるかについて、外部評価委員による学校関係者評価を行い、その客観性や透明性を高める評価。

#### (評価のポイント)

- ・自己評価結果の内容が適切か
- ・自己評価結果を踏まえた今後の改善方策が適切か
- ・学校の重点目標や評価項目等が適切か
- ・学校運営の改善に向けた実際の取り組みが適切か

#### <学校関係者評価点一覧>

大項目	評価項目	自己評価	学校関係者評価 3...優れている 2...適切 1...改善が必要
1 経営理念・目的・育成人材像	1-1-1 理念・目的・育成人材像は、定められているか	4	2.6
	1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	4	
	1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	4	
	1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	4	
2 学校運営	2-2-1 理念に沿った運営方針を定めているか	3	2.6
	2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか	4	
	2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか	4	
	2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか	3	
	2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか	3	
	2-6-1 意思決定システムを整備しているか	4	
	2-7-1 情報システム化に取り組み、業務の効率化を図っているか	3	

3 教育活動	3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	3	2.5
	3-8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	3	
	3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	3	
	3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか	3	
	3-9-3 キャリア教育を実施しているか	3	
	3-9-4 授業評価を実施しているか	3	
	3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	3	
	3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	3	
	3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	4	
	3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか	4	
	3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	3	
	3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか	3	
	3-12-3 教員の組織体制を整備しているか	3	

4 学修成果	4-13-1 就職率の向上が図られているか	4	2.4
	4-14-1 資格・免許の取得率の向上が図られているか	4	
	4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか	3	
5 学修支援	5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	4	2.3
	5-17-1 退学率の低減が図られているか	4	
	5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか	3	
	5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか	3	
	5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	4	
	5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	3	
	5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか	3	
	5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか	4	
	5-20-1 保護者との連携体制を構築しているか	3	
	5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか	4	
	5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	3	
	5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	3	

6 教育環境	6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	4	2.2
	6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	4	
	6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	3	
	6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	2	
7 学生の募集と受入	7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	3	2.6
	7-25-2 学生募集を適切かつ効果的に行っているか	4	
	7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	4	
	7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	3	
	7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	4	
	7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか	4	
8 財務	8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	3	2.7
	8-28-2 学校及び法人運営に係る主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	4	
	8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	4	
	8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	4	
	8-30-1 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	4	
	8-31-1 私立学校法に基づく財務公開体制を整備し、適切に運用しているか	3	



9 法令等の遵守	9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	4	2.6
	9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	4	
	9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	4	
	9-34-2 自己評価結果を公表しているか	4	
	9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	4	
	9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか	4	
	9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	4	
10 社会貢献・地域貢献	10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3	2.5
	10-36-2 国際交流に取り組んでいるか	3	
	10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	3	

## 2019 年度学校関係者評価報告に対する学校コメント

### 【基準 1 経営理念・目的・育成人材像】

#### 1-1 理念・目的・育成人材像

評価項目	コメント
1-1-1 理念・目的・育成人材像は、定められているか	<p>(委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も理念の周知の継続をお願いしたい。</li> <li>・教育理念を共有する機会は何回ぐらいあったのでしょうか。</li> <li>・クレドの校内掲示の効果はどうか。</li> <li>・留学生にわかりやすく理念や目的や育成人材像が伝わっているか。</li> <li>・理念等を実現するための具体的な目標・計画・方法を定めているかを確認したい。</li> <li>・教育理念が HP 上で閲覧出来るのは良いです。</li> <li>・人材育成に関して、教職員の定着率に変化はありますか？</li> <li>・授業アンケートが良いアイデアである。</li> </ul>
<p>(学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学園としてのクレド導入については、5年前からスタートし、事務局や教室への掲示、ホームページへの掲載を行っている。</li> <li>・新任教員似たい、入職時のオリエンテーションで教育理念の共有を行っている。</li> <li>・今年度、学園のクレドに基づき3ポリシー（アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー）の作成を進めている。</li> </ul>	
1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	<p>(委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程編成委員会委員の1人として、より充実した教育課程・授業計画が策定できるよう取り組んでいきたい。</li> <li>・同一科目で複数の教員が担当する教科において、教材内容面での統一は図られているのか。</li> <li>・シラバスの策定において、関連業界等からの協力を得ているかを確認したい。</li> <li>・留学生増加による学内教育での課題はありますか？（特に言語、意志疎通に関すること）</li> <li>・実習施設の活用は同窓生を巻き込むと良い。</li> </ul>
<p>(学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単年度課程の学科については指定科目以外に時間を費やす事が困難であるため、指定科目の中で実務家教員に講義を依頼する事により、関連業界からの協力を得ている。</li> <li>・複数年課程の学科についてはカリキュラムに余裕があるため、指定科目とは別に関連業界と連携した講義を実施している。</li> <li>・同一科目で複数の教員が科目を担当する場合、教材内容については教員に一任している。</li> <li>・個々の能力に差がある留学生への支援対策として、日本語能力の高い留学生と日本人で構成される「オリジナルクラス」と、日本語能力の低い留学生で構成される「インターナショナルクラス」に分けている。オリジナルクラスは、卒業後現場で活躍できる介護福祉士となることを目指しているのに対し、インターナショナルクラスは国家試験合格を目標としており、使用している教材や配布資料が異なる。</li> </ul>	
1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	<p>(委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程編成委員会の充実を図りたい。</li> </ul>
<p>(学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度より、教育課程編成委員会の委員を増員している。今後はより活発な意見交換を行い、教育課程の編成に繋げていきたい。</li> </ul>	
1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	<p>(委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育理念に沿った先駆的な取り組みを評価します。</li> <li>・同窓会誌を保護者会で活用</li> </ul>
<p>(学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も継続して取り組んでいきます。</li> </ul>	

### 【基準 2 学校運営】

#### 2-2 運営方針

項目	コメント
2-2-1 理念に沿った運営方針を定めているか	<p>(委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経営理念、敬心クレドに基づく学校運営が不可欠のため、全教職員漏れなく理念、敬心クレドの周知、浸透を図ってほしい。</li> <li>・敬心クレドは非常に効果的で素晴らしいので学生の評価はどうか。</li> <li>・運営方針の組織内の浸透度を確認しているかがわからない。</li> </ul>
<p>(学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行動計画を記載した目標シートの作成を行い、方向性や進捗状況を定期的に確認し実施を即すことで敬心クレドの浸透を図りたい。</li> </ul>	

#### 2-3 事業計画

項目	コメント
2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか	<p>(委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予算、事業目標が計画どおりに実践されているか四半期ごとに行われていることは非常に良い。</li> </ul>
<p>(学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も継続していきたい。</li> </ul>	

## 2-4 運営組織

項目	コメント
2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか	(委員) ・議事録を作成後の情報共有後は活かしていますか ・東京都に何の変更届を手続きしているか
(学校)	・学園理事会での検討内容については、教職員連絡会議等により教職員に伝達している。 ・学則変更や教職員の採用解職、定期報告等、学校運営上必須となっている諸手続きを行っている。
2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか	(委員) ・規定等は非常に重要なので期日を設けて実践していますか。 ・改善方策が「検討」止まりのため
(学校)	・各種委員会は学則に基づき運営しているが、詳細な規定の整備は整っていない。規定の整備を実施する必要性を認識している。 ・保険計画や安全計画については、危機管理推進委員会を中心に作成を進める。

## 2-5 人事・給与制度

項目	コメント
2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか	(委員) ・人事考課と給与との連動は資金的なこととも関連しますので賞与等に反映してはどうか。 ・職員のモチベーションにもつながるので検討が必要。 ・課題部分、「評価と報酬の連動に向け、教職員の理解を深める」とあるが、教職員の理解を深めることでどのように連動につながるのか伺いたいです ・個別相談は行った方が良いと思います。 ・360° 評価等も導入していく方向性はありますでしょうか？
(学校)	・過去に学園統一で人事考課と給与との連動を行ったことはあるが、評価軸統一と評価に対する異議申し立て窓口の整備が不十分であったため現在は休止している。専門職大学の設置に併せて再開する予定。

## 2-6 意思決定システム

項目	コメント
2-6-1 意思決定システムを整備しているか	(委員) ・今後も継続して下さい。
(学校)	・今後も稟議書を活用した適切かつ円滑な意思決定に心掛けたい。

## 2-7 情報システム

項目	コメント
2-7-1 情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか	(委員) ・デジタル化されることにより個人情報の漏洩対策は大丈夫ですか。 ・さらなるデジタル化が、今後の学務及び教員の負担軽減につながると考えられる。(実習先、就職先等) ・情報システム化で何をしたいか、目標にそって取組内容を見直してはどうでしょうか ・デジタル化は良い。
(学校)	・個人情報の漏えいについては、各拠点の出入り口にセキュリティーを施し外部からの新入を遮断している。 ・情報システム化への取り組みの一つとして、各学科が保有している実習情報のデータベース化を進めている。新規実習地開拓や過去の実習履歴等の確認など、有益に活用できる見込みである。

## 【基準3 教育活動】

### 3-8 目標の設定

項目	コメント
3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	(委員) ・教育課程の編成方針について、ホームページなどで公開準備が進められているのはとても良いです。
(学校)	・入学希望者の目線に立った情報公開に努めたい。

3-8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	<p>(委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学者の多様化により、入学者のレベルに応じた対応の困難さが増していることと思われるが、国試合格率の高さが本校の重要なセールスポイントであるため、より柔軟な対応をお願いしたい。</li> <li>・本校の「魅力」をより具体的に誰に発信するのか今学んでいる学生や卒業生等の言葉をから明確化してどうか。</li> <li>・個別相談などにより、各学生の思い（資格を目指した経緯、目指す支援者像など）を、支援体制へFBしてはどうでしょうか。</li> <li>・入学する学生はレベルを含めて多様な状況になっていると考えられるので、目標設定を定め体制作りを行う必要があると考えます。</li> <li>・学生の学力レベルは卒業年度対象か。</li> <li>・留学生の到達レベルを図るためにも、通訳担当の人材が必要かと思われます。</li> </ul>
<p>(学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学試験時に個人面談を実施しているが、入学後も実施する必要があるかもしれない。</li> <li>・各学科、入学前から学生の情報を把握し、学生のレベル感に応じて当該年度の教育運営を検討している。</li> </ul>	

### 3-9 教育方法・評価等

項目	コメント
3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	<p>(委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実践教育の成功例として、介護福祉学科「カイゴのミライ」の取り組みは大いに評価できる。</li> <li>・授業評価アンケートの内容はすべて同一ですか。</li> <li>・座学と福祉現場との連携からの学びは効果的ですので今後も継続を希望します。</li> <li>・国家試験終了後の授業に工夫が欲しいと思いました。実際の福祉現場で働くことを想定して、各福祉職の仕事概要、法的な知識、相談業務の実際訓練等、体系的な授業があればよかったです。同じ科目でも、教員によって授業内容が異なっていました。</li> <li>・高機能自閉症（軽度）の学生へのサポートについても検討いただきたい</li> <li>・検証した結果を分析し、活用した方が良いです。</li> </ul>
<p>(学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業評価アンケートの項目は全学科同一となっている。</li> <li>・授業評価アンケートについては活用している学科と活用しきれていない学科がある。今後は学校として現校長の大谷の方針である「テーラーメイド教育」の実現に向け、授業評価アンケートの活用を推進したい。</li> </ul>	
3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか	<p>(委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在も卒業生を外部講師に招いた講義が行われているが、今後さらに多くの機会を設け、在校生、卒業生の教育課程編成に対する意見聴取を行ってほしい。</li> <li>・魅力ある学生生活とも関連しますので過去に在校生や卒業生からの意見などが反映されたことはありますか。</li> <li>・卒業生の立場として、学内の動き・仕組みについての理解が乏しい現象がある。現場からの学校卒業生に対する評価としては有効かと思えます。</li> <li>・課題に述べられているように、多様な卒業生の意見聴取は必須であると考えます。現場に出て「こんな事も学んでおけばよかった」等の生きたニーズの把握により効果的である。</li> <li>・課題に挙げられている部分は重要と考えます。</li> </ul>
<p>(学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同窓会と連携して卒業生からの意見聴取を実施し、教育課程の編成に役立てたい。</li> </ul>	
3-9-3 キャリア教育を実施しているか	<p>(委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア教育、オープン科目の多様化を図り、より多くの学生に参加をしてほしい。</li> <li>・何を求めているかを確りと在校生、卒業生から意見聴取をしないとすべてが形式的に済まされてたら活きた教育にはつながらないと実感します。</li> <li>・キャリア教育という観点でいえば、オープン科目が在学中から卒業後の中長期的キャリアを想起させる内容か、時代に合わせた見直しが必要ではないか。</li> <li>・1年コースであっても、様々な福祉機関・就職先・応募の仕方への詳しい情報が欲しかったです。</li> <li>・支援の理想と現実、支援者間の支援観の相違等、入職後のカベについて、卒業生から話をしてもらうことはどうでしょうか</li> <li>・オープン科目の活用が望まれます。</li> <li>・卒業生の自主的勉強会等のバックアップは可能でしょうか？OBの多い日福の良さを活かせると思います。現場経験が浅い1～5年目の卒業生の精神的受け皿として。</li> <li>・課題に述べられているように、多様な卒業生の意見聴取は必須であると考えます。現場に出て「こんな事も学んでおけばよかった」等の生きたニーズの把握により効果的である。</li> </ul>
<p>(学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年課程の学科については国家試験の合格に教育の柱をおいているため、在学中の課程においてはキャリア教育に比重を置いていない。但し、精神保健福祉士養成の学科については、卒業後教育として、世親保健福祉士研究科を実践している。</li> <li>・複数年課程の学科では、オープン科目でのキャリア教育を実践している。または、日常でのマナーや礼節教育を実践している。</li> </ul>	
3-9-4 授業評価を実施しているか	<p>(委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・魅力ある学校、多様化する学生に対応するためには検証する仕組みづくりを是非早急をお願いします。</li> <li>・学校全体で授業評価と検証が出来る体制があった方が良く考えます。</li> <li>・学生の意見が聞けて良い。</li> </ul>
<p>(学校)・3-9-1に準ずる。</p>	

3-10 成績評価・単位認定等

項目	コメント
3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	(委員) <ul style="list-style-type: none"> <li>・より具体的な内容で学生にも理解しやすい配慮を期待します。</li> <li>・在学中、毎日の勉強が身についているか非常に不安だったため、前期試験の成績から理解度がわかるようなデータ（設問ごとの正答率など）がほしい。</li> </ul>
(学校)	・成績評価や修了認定については学則に明記しているが、今年度より新たに GPA を導入し、学生の成績分布の把握や学生指導に活用する。
3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	(委員) <ul style="list-style-type: none"> <li>・学術研究等は非常に少ないが学生向けの情報発信も重要。</li> <li>・卒業式等での表彰は効果的で高く評価します。</li> <li>・具体的事例の掲示や HP 掲載等による学生への啓発も可能ではないか。</li> <li>・学生のモチベーションが上がって良い。</li> </ul>
(学校)	・学術研究会の詳細は法人のホームページに掲載している。

3-11 資格・免許取得の指導体制

項目	コメント
3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	(委員) <ul style="list-style-type: none"> <li>・国家資格を取得として入学前後のモチベーション低下が見受けられる学生の増減は。(高校卒業・社会人)</li> <li>・卒業後の展望を提示できるようなホームページ等での卒業生就職先紹介例の充実等も検討できるのではないか。</li> <li>・大変よく計画されていると思います。</li> <li>・入職後のイメージをもてるよう、入学前講座や施設見学をもっと実施してほしい。</li> <li>・施設見学と積極的に行った方が、その後の本人のプラン設計に役立つと考えます。</li> <li>・入学前の説明会では、できるだけ客観的に現場の状況（卒業後の現実）を伝えることが大切だと思います。</li> </ul>
(学校)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学前講座や早期の施設見学等を実施し、学生のモチベーションを保つ努力をしている。</li> <li>・卒業生や在校生の声をホームページに掲載しており、資格取得を目指す入学希望者に情報提供をしている。</li> </ul>

3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか	(委員) <ul style="list-style-type: none"> <li>・不合格者に対して翌年度の受講対策講座の情報提供から充実した配慮に反応どうですか。</li> <li>・個別の国家試験対策講座にも取り組んでいることを評価します。</li> <li>・不合格者への指導体制が、不合格者本人に伝達されているか。伝達されているとすれば、その方法は何か。</li> <li>・指導体制がきちんとしているから国家資格取得率が高いのだと思いますが、担任教員への負担が過重ではないかと思いました。</li> <li>・卒業後教育の検討状況を開示していただきたい。</li> <li>・卒後教育は就職活動にも有利に働くと考えます。</li> </ul>
(学校)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国家試験不合格者に対し、翌年度の授業を4科目まで受講可能であると伝えている。また、学校が実施している国家試験対策講座への受講案内を送付している。</li> <li>・卒業後教育に関しては、「3-9-3」を参照下さい。</li> </ul>

3-12 教員・教員組織

項目	コメント
3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	(委員) <ul style="list-style-type: none"> <li>・継続した教員のスキル向上の研究日を設定していること必ずや授業に生きてきますので今後も継続して。研究の成果を共有して下さい。</li> <li>・威圧的な授業態度や自己都合の休講の伝え方や補講に際し配慮に欠けることがあった。学生の科目の得手、不得手は教員に左右されるため、一考をお願いしたい。</li> <li>・良い意味で学生と距離が近く、面倒見が良い印象でした。</li> <li>・人間性はどうか判断しているか。</li> </ul>
(学校)	・教員の人間性と資質については新規採用時の面談で確認している。
3-12-2 教員の資質向上への取り組みを行っているか	(委員) <ul style="list-style-type: none"> <li>・継続した教員のスキル向上の研究日を設定していること必ずや授業に生きてきますので今後も継続して研究の成果を共有して下さい。</li> <li>・テキストどおり一行をそれずに授業をする先生もいれば、研究を重ねたうえ授業して下さる先生もいらっしゃる。「わたしに聞かれても・・・」と、そらすことなく、ご自身の経験からの言葉を返してほしい。</li> <li>・学術研究会に全教職員が参加する仕組みはとても良いと考えます。</li> <li>・研究会に全員参加は良い。</li> </ul>

(学校)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>専任教員の研究日設定や教授能力向上を目的とした研修プログラムの実施等、今後も教員の資質向上への取り組みを実施していきたい。</li> <li>また、非常勤講師の採用については学科教員が中心となり採用する為、非常勤講師懇談会等を通じ、本校の教育方針の浸透、入学者の傾向に合わせた教育指導方法の構築を進めている。</li> </ul>	
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか	(委員) <ul style="list-style-type: none"> <li>専任、非常勤講師もとの情報共有や連携は重要なので今後も確りと継続されることを期待します。</li> <li>教員のレベルは高いと思う。</li> </ul>
(学校)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>専任教員と非常勤講師間の連携をより一層深め、教育支援体制の構築に努めたい。</li> </ul>	

【基準4 学習成果】

4-13 就職率

項目	コメント
4-13-1 就職率の向上が図られているか	(委員) <ul style="list-style-type: none"> <li>就職率向上の対応は十分評価できが、就職を急がない学生に対する対応は課題である。</li> <li>留学生就職支援の在り方で困難なケース等はありませんか。</li> <li>就職後の就業継続率等のデータ収集および開示は行われているか。</li> <li>在学中に特段のサポートは見られなかった。</li> <li>求人情報を閲覧、検索する場所や雰囲気について使ってみようと思うようなアイデアを出しても良いかと。</li> <li>在学中の印象としてですが、就職センターでの相談がしづらい印象でした。具体的な進路指導の難しさ (PSW 学科のため)、就職セミナーは介護、福祉系が多い。国家試験後の就職セミナー開催は可能か？</li> </ul>
(学校)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>国家試験合格に比重を置いている学生は、どうしても就職活動が後回しになってしまう。就職活動が遅くなるほど求人件数は減少していき、就職活動に影響がでてしまう。早期に就職活動を実施する事の重要性を説明し、国家試験対策と並行して早期から就職活動に取り組むよう、案内する。</li> <li>現在の留学生はほとんどがエージェント経由で入学しており、入学時点で就職先が決定しているケースが多い。</li> <li>卒業生の就業継続率等のデータ収集については、その必要性は認識しているものの実施までは至っていない。</li> <li>本校は早期の就職活動を推奨しており、実際に国家試験の時期には約8割の学生が就職内定となっている。そのため、国家試験後の就職セミナーについては開催を予定していない。但し、国家試験終了後も就職活動を行う学生に対しては、個別のサポートを実施している。</li> </ul>	

4-14 資格・免許の取得率

項目	コメント
4-14-1 資格・免許の取得率の向上が図られているか	(委員) <ul style="list-style-type: none"> <li>合格率 100%には至っていないものの、各資格で全国トップクラスの合格率である。</li> <li>国家試験取得に充実して能力差に応じては個別支援まで実施していることについて高く評価します。</li> <li>さらなる合格率アップが学生確保につながると考えられるため、引き続き学科教員の先生方の尽力をお願いしたい。</li> <li>在学中に特段のサポートは見られなかった。</li> <li>合格率 100%は現実的な数字といえるでしょうか？無理な目標はかえって他にしわ寄せが生じるのでは？</li> </ul>
(学校)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>国家試験受験の学科においては今後も合格率 100%を目標に、模擬試験や受験対策講座の実施等、サポートの充実化を図っていく。</li> <li>学生の多様化に伴い、GPA の分布に基づいた国家試験対策の実施が重要となる。</li> </ul>	

4-15 卒業生の社会的評価

項目	コメント
4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国や様々な国から入学してきた卒業生の社会的評価等を把握が困難であり、同窓会としても大きな課題となっている。</li> <li>Facebook の効果はありますか。</li> <li>毎年の同窓会はお互いの情報交換の場で助かってます。</li> <li>地方に就職した学生の実態把握は困難であるとあるが、インターネットで全世界がつながる時代において、全国の卒業生の実態把握を今後行う体制づくりも必要ではないか。</li> <li>取組状況の開示をお願いします。</li> <li>卒業生に関するネットワーク作りは大切に価値があるものだと思います。外国籍の学生の対応も急務。</li> <li>情報を集め、上手く PR できれば、新規入学者増加の一手になる可能性があると考えます。</li> </ul>
(学校)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業生の社会的活躍については各就職先や実習先、同窓会等の場で収集しているが、十分ではない。</li> <li>卒業生の状況把握の重要性は認識しており、情報収集の強化に向けた対応に関し皆さまよりアドバイスを頂きたい。</li> </ul>	

【基準5 学生支援】

5-16 就職等進路

項目	コメント
5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	(委員) <ul style="list-style-type: none"> <li>情報の新旧についての把握はどうか。</li> <li>履歴書の書き方や面接の指導はありがたいです。(特に留学生などは国柄の考え方もある)</li> <li>就職フェアに学生全員参加。</li> </ul>
(学校)	<ul style="list-style-type: none"> <li>就職活動への動機付けとして、就職フェアへの参加は有効であると考えている。学生全員参加を目指し、教員と職員が一丸となって声かけを行っていきたい。</li> </ul>

5-17 中途退学への対応

項目	コメント
5-17-1 退学率の低減が図られているか	(委員) <ul style="list-style-type: none"> <li>一定の割合で就学継続が困難な学生が存在してしまうが、学生(留学生を含め)ごとの状況に応じた対応は、適切にされていると考える。</li> <li>今後の重要な課題の一つである。</li> <li>中途退校の要因と傾向が特定できているのに、有効な施策が見い出せないのはなぜか。</li> <li>退学者が出たクラスに所属している学生側のサポートがほしい。</li> <li>中退に関する要因と傾向が特定出来たことはとても良いです。次はその対策を検討出来たら良いです。</li> <li>毎年の推移率や学科による傾向に差はあるでしょうか？</li> </ul>
(学校)	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度、教務推進委員会が中心となり退学者の傾向を分析した結果、中途退学の主な要因として「学業不振」や「モチベーション低下」「精神面」等が挙げられた。</li> <li>昨年度は退学の要因を把握するにとどまったが、今年度は入学前から学生情報を収集し、中途退学の要因に該当する可能性がありそうな学生については、入学後速やかに声かけ等を行う。また、出席管理をシステム化し、全教職員が学生個々の出欠状況を確認出来る環境を整備しており、欠席がちな学生や遅刻が多い学生に対し声かけを行っている。このように、学校全体で中退率の抑制に取り組んでいく。</li> </ul>

5-18 学生相談

項目	コメント
5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか	(委員) <ul style="list-style-type: none"> <li>相談者に医療機関のパンフレットなどの紹介は非常にうれしい限りです。</li> <li>今後は相談内容データベース化による他職員への共有も検討材料になると考えられる</li> <li>福祉を目指す学生の中には、当事者も多い傾向にあるので、メンタル面の相談をし易い環境作り(学生に更なる相談窓口の周知等)が必要。</li> <li>医療的な対応が必要な学生も一定数入っていると思われ、教員、事務職員の兼任体制では限界があるのでは？</li> </ul>
(学校)	最近の相談内容の傾向として、プライベートに関する相談が多く、プライバシー保護の観点から相談内容の共有は最小限に留めている
5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか	(委員) <ul style="list-style-type: none"> <li>刻々と変化する国際情勢の中で、留学生の対応について都度困難な問題も生じていると思われる。今後も留学生の状況に合わせた対応を継続していただきたい。</li> <li>留学生が安心して学べる体制が確りされていることを評価します。</li> <li>留学生増加に伴う外部連携を視野に入れた体制作りに、期待したい。</li> <li>昨今の報道もあり、気になる領域になります。</li> <li>日本語指導員の導入は良い。</li> <li>留学生の到達レベルを図るためにも、通訳担当の人材が必要かと思われます。</li> </ul>
(学校)	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本語教員や留学生担当職員の配置、留学生専門企業との連携により、学修・生活支援の充実を図っている。今後も積極的に留学生を受け入れていくにあたり、外部連携等、さらなる体制づくりを進める。</li> </ul>

5-19 学生生活

項目	コメント
5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	(委員) <ul style="list-style-type: none"> <li>あらゆる支援体制の情報を確りと提供しているので安心して学ぶことができる。</li> <li>専門実践教育訓練給付制度について、わかりやすいチラシが用意されていた。</li> </ul>
(学校)	<ul style="list-style-type: none"> <li>学生の経済的不安が軽減されるような、経済的支援策を検討していきたい。</li> </ul>
5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	(委員) <ul style="list-style-type: none"> <li>集団の集う場所から衛生管理体制は非常に大切なので常にチェック体制を確りと継続をして下さい。</li> <li>有事の際に備えるための体制作りは急務だと考えられるため早急な対応をお願いしたい。</li> </ul>

<p>(学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の健康管理手段として、各フロアにアルコール消毒液の設置や手洗い場にうがい用紙コップの設置を行っている。また、手洗い・うがいを推奨する学生の手作りによるポスターの掲示を行っている。</li> <li>・学校保険計画の策定は急務であり、今年度中の策定を目指している。</li> </ul>	
<p>5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか</p>	<p>(委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4-15-1では「学生が全国から入学し」とあるが、矛盾していないか。</li> <li>・寮の利用率が2～3%なので、何か利用が出来る仕組みがあった方がいい。もったいない。</li> <li>・留学生の居住実態について教えてください。</li> <li>・利用率を上げたい。</li> <li>・地方では専門学校が無い地域も多く、反面東京に出たいと考える若者も多い為、新規学生増加の一手になる可能性があります。</li> </ul>
<p>(学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・提携先の学生寮利用率は2～3%である。学生寮は留学生にとっては高額であり、敬遠されているのではないか。</li> <li>・留学生の居住実態については、経済的負担を軽減するためにルームシェアをしているケースが多く見受けられる。</li> </ul>	
<p>5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか</p>	<p>(委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本校の伝統である手話サークル等へ適切な支援がされている。学生より新たなサークル活動の提案があった場合は柔軟に対応していただきたい。</li> <li>・柔軟に対応していることを評価します。一方学生からの活動支援に対する意見などはありますか。</li> <li>・補助金を支給しているのであれば、ボランティアの実績として広報活動等に協力も要請できるのではないか</li> <li>・同窓会でも助成している？</li> <li>・クラブ活動は支援、補助金の体制があれば、参加者が少なくてもよいと思います。</li> </ul>
<p>(学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア活動等、サークル活動の実績をSNS等に掲載してアピールする事は良い取り組みと思います。</li> </ul>	

#### 5-20 保護者との連携

項目	コメント
<p>5-20-1 保護者との連携体制を構築しているか</p>	<p>(委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者との連携は今後も大切にしてください。</li> <li>・学費負担が本人であっても、大卒者、高卒者に関わらず、特に実家で生活している学生には、保護者からのサポートは大きいのではないか</li> </ul>
<p>(学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・未成年の学生については学生サポートを行う上で保護者との連携が非常に重要であると認識しており、保護者に対し学生の授業への出席や成績、学費等の連絡を行っていますが、成人学生については入学に至るまでの背景が様々であるため、成績や学費、出欠等については自己責任とし、保護者への連絡は原則行っていません。</li> </ul>	

#### 5-21 卒業生・社会人

項目	コメント
<p>5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか</p>	<p>(委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多種多様な進路に進む卒業生への支援体制の整備が困難であることは理解できる。ただ、同窓会と連携した取り組みを行い、卒業学校と卒業生との関係の継続を図り、再就職の支援等を行うことが必要である。また各職場で求人を担当する卒業生とのネットワークづくりも必要である。</li> <li>・現状の国家資格取得に向けたスキルアップ支援を継続する一方、将来的には専門職大学との連携によるスキルアップ支援も必要である。</li> <li>・同窓会は交流の場として楽しみの一つです。</li> <li>・同窓会の参加率はどのくらいでしょうか</li> <li>・同窓会案内は郵送案内のみだが、卒業後のキャリアアップ等講座案内や卒業生の実態把握アンケート等のためにも、メールによる案内を検討する時期に来ているのではないか。</li> <li>・どのような卒業フォローを求めているか、把握の場を多く設けていただきたい。</li> <li>・同窓会は「遠い」印象。</li> <li>・協力がある。同窓会総会の活用。</li> <li>・課題に述べられているように、多様な卒業生の意見聴取は必須であると考え。現場に出て「こんな事も学んでおけばよかった」等の生きたニーズの把握により効果的である。</li> <li>・更に進んだ支援体制があると良いかと考えます。</li> </ul>
<p>(学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同窓会への参加者数を向上させることは、卒業生の就業状況把握やネットワークの構築、卒業生の卒業教育に関する要望の確認等を行うにあたり、非常に重要である。また、同窓会は卒業生にとっても人脈形成や他職種との交流など、メリットは多い。</li> <li>・昨年度の同窓会参加者は約150名であったが、今後少しでもたくさんの卒業生が同窓会に参加したいと思えるよう、同窓会と連携して内容や広報手段等の検討を進めたい。</li> </ul>	



5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	(委員) ・卒業生と関連業界の協同研究の実施や研究紀要の執筆等、努力がされている。 ・関係業種に限らずコラボによる学びは非常に大きな学びにもなりますので是非実践して下さい。 ・一部の卒業生？
(学校) ・今後も卒業生に対し学術研究会に参加して頂くよう促していきたい。	
5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	(委員) ・夜間課程（2コース）の設定等、ニーズを踏まえたコース設定がなされている。将来的には開設予定の専門職大学とのタイアップによる教育環境の整備や多様化を期待する。 ・社会人に学ぶ環境の拡大に繋がっていると確信します。 ・多様な社会人のニーズに応えられるよう通学負担を減らすために、1年半や2年等長期履修制度も検討の余地があるのではないか。
(学校) ・本校は学年制を採用しており、現時点で長期履修制度の取り扱いは無い。また、養成施設の指定規則上も長期履修制度の導入は困難である。 ・働きながら学ぶ社会人学生のニーズに応え、社会福祉士、精神保健福祉士の夜間課程には16:30からスタートするトワイライトコースと、18:10からスタートするナイトコースを設置している。 ・今後も、多様化する学生にニーズに応えられるよう、教育環境の整備に努めたい。	

【基準6 教育環境】

6-22 施設・設備等

項目	コメント
6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	(委員) ・設備的な問題は経費とも関連が必要なので長期的な計画的は設備関係の補修設備関係は作成してるのでしょうか。 ・専門書籍等改訂版の入れ替え購入は実施されているか。 ・うがい用紙コップの設置など、設備の補充がなされていた。 ・福祉について教えている学校なので、校舎のバリアフリー化を望みます。 ・図書室における図書が法令等が改正された内容に更新されていない場合がある。見直しの必要有りと考え。 ・IT関連機器の旧式化が進んでいるように思えます。
(学校) ・修繕計画は4年先の計画を立てている。専門書籍の改訂版は法令等改正に伴い、教員の要望に合わせて入れ替えをおこなっている。バリアフリー化については、福祉の学校としては課題として検討したいが、本校舎については賃貸物件であることから、校舎全体のバリアフリー化には限界もある。特に入口のスロープは構造上、バリアフリー化にすることは難しいため、車椅子の方向け専用の昇降機を使用している。	

6-23 学外実習、インターンシップ等

項目	コメント
6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	(委員) ・今後も実習先と学校とが密接に連携しよりより実習プログラムとなることを期待する。 ・実習先とのより良い関係づくりも確りされていることを評価します。 ・実習先のデータベース化はされているか。(実績把握、翌年以降の実習依頼、学生募集時広報活動への使用等) ・実習環境（施設、指導者）の選考については、再検討をいただきたい。 ・卒業生との交流会があれば良い。
(学校) ・学科ごとの実習先データは存在するが、学校全体で一元管理したデータ化はされていない。実習環境（施設、指導者）の選考については、医療機関の実習の数が多く確保されていないことから、難しいのが実情である。	

6-24 防災・安全管理

項目	コメント
6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	(委員) ・災害対応マニュアルの見直しについて至急取り組み最新のものに改定していただきたい。また災害時の事業継続計画（BCP）の作成、見直しも必要。 ・さらに地震等災害に慣れていない留学生への対応の想定も必要である。 ・非常時に備えた備蓄品はどこまでが必要ですか。 ・食品も該当しますか。(何日分) ・校内及び各教室に避難経路や災害時の対応に関する掲示はされているか ・避難場所の確認のための訓練を計画してほしい。 ・大震災時に備えた定期的な防災訓練や帰宅困難が発生した時の学生の安全、備蓄等も視野に入れた計画、マニュアル等の見直しが必要。
(学校) ・最新の災害マニュアルや事業継続計画（BCP）については、今年度より危機管理委員会のテーマとして検討していく。また、避難場所の確認と合わせて、シェイクアウト訓練も実施する予定。非常時に対応できるよう、学生と教職員の備蓄品は約3日分を備蓄している。	

6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	(委員) ・早急にマニュアルの整備を行う事が日々の安心に繋がります。 ・事故発生時の対応マニュアルは作成した方が良いです。
(学校) ・事故発生時の対応マニュアルは、学生便覧の「学校防災計画」に記載をしている。	

【基準7 学生の募集と受入れ】

7-25 学生募集活動

項目	コメント
7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	(委員) ・外部に向けた発信は常に継続的に情報発信が求められるので是非いろんな工夫を利用して実践して下さい。 ・サポート校への取り組みも、高等学校と同様にできるのではないだろうか。 ・高校に対して説明は難しいが、よくやっている。
(学校) ・高等学校と接続する教育はすでに実施しており、その中にはサポート校も含まれている。	
7-25-2 学生募集を適切かつ効果的に行っているか	(委員) ・定員が充足されない原因分析は確りを行い他校と異なった魅力を発信して募集定員の充足に繋げてください。 ・イベント内容が定例化していないか。応募者のニーズに合っているか、学校の魅力を伝え入学してもらいたいと思ってもらえる内容かは、常に再考が必要でないか ・定員までもっていけば可。 ・もう少しPR活動を行っても良いかもしれません。
(学校) ・今年度入学者実績は、定員478名に対して、325名と厳しい結果となった。より早く本校の教育活動を認知してもらうことに加えて、他校と異なった魅力作りと発信方法(広報活動・イベント)の見直しを継続しておこなっていく。	

7-26 入学選考

項目	コメント
7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	(委員) ・信頼性の高い判定を評価します。 ・AO面接時に複数の面接官が面接にあたっているか。 ・数年前、精神保健福祉士の通信課程に応募しましたが、不合格になりました。理由は明示されませんでした。
(学校) ・AO面談は1:1の面談を実施しているが、担当した面接官によって評価がブレないように、合格基準を学科内で統一している。学科の判定から、最終判断は学校長がおこなっている。	
7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	(委員) ・コメントなし
(学校) コメントはありません。	

7-27 学納金

項目	コメント
7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	(委員) ・適切な対応を評価します。
(学校) ・今後も適切な学納金算定を継続していきます。	
7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか	(委員) ・適切な対応を評価します。
(学校) ・入学辞退者に誠意ある対応をしていきます。	

【基準 8 財務】

8-28 財務基盤

項目	コメント
8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	(委員) <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校法人として、大学開設に伴う財務の諸課題抱えているが、概ね安定していると考えられる。今後の少子高齢社会に向け、本校単独でなく、学校法人全体での課題整理や検討もされ評価できる。</li> <li>・入学者数によって収入と収出が変動しますので先駆的な取り組みやコスト意識も確りと重視して下さい。</li> <li>・財源確保のためには、入学定員充足に向けたさらなる取り組みが必要であると考えられます。</li> <li>・入学前の電話問合せ時の対応やオープンキャンパスにて、入学定員確保につながる取組がありました。</li> <li>・学生数を増加することが大事と考えます。</li> </ul>
(学校)	・みなさまのご指摘の通り、財務基盤の安定に向けてのコメントは、入学定員確保に向けたさらなる取り組みが必要であると考えます。

8-28-2 学校及び法人運営に係る主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	(委員) <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校法人全体として、適切に行われている。</li> <li>・財務分析が確りとされていることを評価します。</li> </ul>
(学校)	・学校の財務状況については、学校の HP でも公開をおこなっている。

8-29 予算・収支計画

項目	コメント
8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	(委員) <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校法人全体として、適切に行われている。</li> </ul>
(学校)	・予算管理は単年度ごとに実施している。また、中期計画として3カ年計画を策定している。
8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	(委員) <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校法人全体として、適切に行われている。</li> </ul>
(学校)	・今後も適切な予算管理を実施していきます。

8-30 監査

項目	コメント
8-30-1 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	(委員) <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校法人全体として、適切な監査が実施されている。</li> </ul>
(学校)	・今後も私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施していきます。

8-31 財務情報の公開

項目	コメント
8-31-1 私立学校法に基づく財務公開体制を整備し、適切に運用しているか	(委員) <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校法人全体として、適切な財務体制整備および適切な運用がされている。</li> </ul>
(学校)	・今後も適切な運用を心掛けたいと思います。

【基準 9 法令等の遵守】

9-32 関係法令、設置基準等の遵守

項目	コメント
9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	(委員) <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生から教職員に対するハラスメントについても十分留意した上で、今後もハラスメント防止の取り組みの継続を望む。</li> <li>・法令遵守については職員間で理解と行動にバラつきがないように統一出来るような体制作りを。</li> <li>・学校はハラスメントやストーカー等の被害が出やすい空間と考えられる為、法令が必要かと考えます。</li> </ul>
(学校)	・全教職員に対する法令遵守に関する研修会や勉強会をなど企画し、教職員の理解統一を図ります。

## 9-33 個人情報保護

項目	コメント
9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	(委員) <ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き個人情報の保護に留意し、取り組んでいただきたい。</li> <li>入学、卒業と多くの学生個人情報の取り扱いは遵守通りに実施されていることに安心します。</li> <li>教職員のバラツキは早急をお願いします。</li> <li>学校広報でインターネット SNS 等利用していることもあり、個人情報に関して情報公開にあたってのガイドライン策定も今後必要になる可能性があると考えられます。</li> <li>個人情報保護に関しても同上です。</li> </ul>
(学校)	・教職員の意識付けを図る為に、教職員会議などの場を活用してセミナーの実施を検討していきます。

## 9-34 学校評価

項目	コメント
9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	(委員) <ul style="list-style-type: none"> <li>今後の継続を期待します。</li> </ul>
(学校)	・今後も自己点検の実施体制を整備し、評価をおこなっていきます。
9-34-2 自己評価結果を公表しているか	(委員) <ul style="list-style-type: none"> <li>コメントなし</li> </ul>
(学校)	・コメントはありません。
9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	(委員) <ul style="list-style-type: none"> <li>評価をPDCAサイクルで取り組む姿勢を評価し今後に期待します。</li> </ul>
(学校)	・今年度より、学校関係者評価委員会の実施方法や時期の見直しをおこない、PDCAが廻る体制にて実施をおこなう。

9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか	(委員) <ul style="list-style-type: none"> <li>コメントなし</li> </ul>
(学校)	・コメントはありません。

## 9-35 教育情報の公開

項目	コメント
9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	(委員) <ul style="list-style-type: none"> <li>敬心学園のクレドは非常に魅力を感じます。</li> <li>若年層の学生増加を目的として、高等学校と合わせてサポート校への情報公開や案内等の取り組みも可能でないか</li> </ul>
(学校)	・普通高校とサポート校との区別は行わず、サポート校に対する情報公開を実施いたします。

## 【基準10 社会貢献・地域貢献】

## 10-36 社会貢献 地域貢献

項目	コメント
10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	(委員) <ul style="list-style-type: none"> <li>認知症カフェ等での地域貢献、地元社協との連携した取り組みについて評価できる。今後も地域共生社会の担い手として本校が、産・学・行政・地域に加え福祉施設・機関との連携の懸け橋となるよう、中核的な役割を果たし、学生も主体的に参加できる環境の整備を期待する。</li> <li>学校教育の資源を最大限に地域貢献していることを評価します。</li> <li>コーディネーターは誰が行っていますか。</li> <li>産・学・行政・地域等の連携に関する方針・規定等の整備課の具体的計画立案に向けた努力を期待する。</li> <li>在学中に取組状況を確認できなかった。</li> <li>高齢者総合相談センターとの連携はすごく良い。</li> <li>OBによる症例検討会等を空き教室で行い、学生にも参加してもらおう等、色々と期待されます。</li> </ul>
(学校)	・今後も各協会、自治体と連携してまいります。
10-36-2 国際交流に取り組んでいるか	(委員) <ul style="list-style-type: none"> <li>留学生に対する受入れ、サポートの体制を再構築し、時代や国際情勢に合わせた対応をしてほしい。</li> <li>(他項目との優先順位の度合いにもよるが) 外国人留学生のさらなる増加を踏まえ、フォローの仕組みを確立させ、他校のモデル事業となるよう期待する。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在学中に取組状況を確認できなかった。</li> <li>・日本語文化が難しい。</li> </ul>
(学校)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生のレベルは年度によって差が激しい。年度ごとに日本語レベル、出身国に応じたキメ細かい対応が必要になる。専任教員、日本語教員、教務課と連携して受け入れ体制を見直していく。</li> </ul>

10-37 ボランティア活動

項目	コメント
10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	<p>(委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症カフェの取り組みを始め、長年関わる障害者スポーツ大会のサポート等、ボランティアリーダー校としての役割を大きく果たしている。今後もボランティア活動への参加促進を期待する。</li> <li>・認知症カフェを通じてより地域との繋がりや地域の関係機関との繋がりも学生の実践の学びの場と拡大しますので継続して下さい。</li> <li>・支援者の一人にもなります。</li> <li>・ボランティア活動内容の紹介や報告告知（学内掲示、SNS等）から、学生へのボランティア活動周知や理解を高める活動等可能な範囲での活動奨励を促す取り組みは可能ではないか。ボランティアサークル活動報告等。</li> <li>・在学中に取組状況を確認できなかった。</li> <li>・地域の社会福祉協議会との連携はあるのでしょうか？</li> <li>・ボランティアへの感謝状があれば良い。</li> </ul>
(学校)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も社会活動としてボランティア活動を支援していきたい。豊島区の社会福祉協議会と連携しており、その一環として社会福祉協議会の方がおこなう授業を展開している。</li> </ul>